

## 福山市老人大学

### 第53期 修了式 式辞

本日は、枝廣福山市長のご出席、熊谷市議会議長、古谷市老連会長、池口元老大学長、高橋元学長を始めとするご来賓・講師の先生のご臨席、多くの学生の皆様のご出席を得て、福山市老人大学 第53期修了式が挙行できますこと、大変嬉しく思っております。

学生の皆さん この1年間、良く頑張って老大に通い学びを続けて来られましたね。いよいよ第53期の修了式です。本当におめでとうございます。御承知のように今期は、福山市老人大学創立50周年という、大きな節目となる記念の年でした。

4月7日、リーデンローズで入学式を行い、本日の修了式まで、年間30回の本講座を柱に、様々な行事をはじめ計画していたすべての老大の日常を積み重ねて参りました。

8月13日、福山夏祭り「二上りおどり」には、創立50周年記念として総勢60名で「老大おどり連」を結成し、宮通を練り歩き、沿道の観衆から拍手・喝采を受けました。

9月27日、当会場に来賓の方や講師、多くの学生の皆様にお集まりいただき、「創立50周年記念式典」を挙行し、盛大にお祝いをしました。記念式では50年に及ぶ老大の歩みを振り返ると共に、永年勤続の講師に感謝状、永年在籍の学生に表彰状、善行表彰の学生に感謝状をお渡しすることが出来、これまで老大を支えて下さった方々に対して、学長として感謝の気持ちをお伝えすることが出来ました。本当にありがとうございました。式後は広島県警察音楽隊から、元気が出る心のこもったお祝いの「記念演奏会」を行っていただきました。

10月末、第43回記念学生祭がありました。さわやかな晴天に恵まれ、学生やそのご家族、市民の方々の笑顔が輝いていた二日間でした。老大で積み上げてきた学習を披露する場として、展示やステージなどでの発表でしたが、いずれも素晴らしい内容で、生涯学習の質的な高まりに確信を持つことが出来ました。また、準備から当日の運営、後片付けまで多くの学生が携わり、責任をも

ってやり切ることが出来ました。コロナ禍を乗り越え、4年ぶりに特段の制限を設けることなく、学生全員が主役になるという老大の伝統が十分に見られた、充実した記憶に残る学生祭でした。

こうして、50周年記念に相応しい大きな行事を振り返ってみましたが、行事を節目にしながらも皆さんは1年間、暑い日も寒い日も、せっせと授業を目指して頑張って老大に通ってきました。きっと、今年も皆さんの生活の中には、老大での学びが大きな位置をしめていたのではないかと思います。

こうした日々の中で、生涯学習を積み上げると共に、先生やお友達との絆を深めることが出来ました。また、学級委員や駐車場係、掃除当番など率先して役割を果たす皆さんは、老大運営になくしてはならない存在であり、老大にしっかり居場所が出来たのではないのでしょうか。こうしたことが、とても意義あることだと思っています。

一方で、50周年の今期は、地元の新聞に何度も取り上げて頂きました。7月末から5日間連続で「バラ作り 世界会議 盛り上げに力」、「健康長寿 みんなで体操 元気の源」、「社会貢献 施設で交流 笑顔お届け」等、見事に老大の今日的な意義・役割について評価して頂きました。他にも、「長寿の秘訣 聴いてみた 敬老の日 福山市が動画配信」、「福山市老人大学創立50周年 学生祭 太極拳で幕開け」などなどです。

また、昨年12月24日の「BSテレ東 まちカケル」では、授業風景や部活動、学生祭の様子など、老大生の生き生きとした姿を取り上げ、全国に放映していただきました。

このように、創立50周年記念の老人大学は、多くの関係者の皆様から注目して頂きましたが、中でも私が一番心に残ったことは、50周年記念式典に際し、松田妙子賞を主催している「生涯学習開発財団理事長 佐藤くみ様」から頂いたメッセージでした。「福山市老人大学50周年おめでとうございます。全国に老人大学、シニア大学と名乗る施設は増えていますが、高度成長期だった50年前から生涯学習を始めた先見性、のべ11万人を超える受講生の数、34もの多様な教科とレベルの高さ、活発な地域との連携など、福山市老人大学は、生涯学習において目覚ましい成果を

挙げた実践例であり、大いに評価すべきと考えます。」さらに、「自ら学ぶという自主性においても、目を見張るものがあります。毎日の委員長会とクラスでのそれぞれの役割、駐車場の交通整理や清掃活動など、学ぶ環境を学校任せにせず自分達で整備し50年間つないでこられたのです。」などなど、第3回松田妙子賞を受賞することに至った私たち老大的ことを評価して下さいました。

本当にうれしいメッセージでした。あらためて、半世紀もの間、老人大学に関わって下さった全体的の方々に、心より感謝申し上げます。

現在、旧福山市体育館周辺の工事が始まっています。その跡地に、まちづくり支援拠点施設が誕生し、2階に2026年度から老人大学が入ることになっています。外観イメージ図では、窓を広く配した開放的なデザインの館になっており、わくわくするような素晴らしい施設になりそうです。

創立から50年間、これまで福山市老人大学は講師の先生や地域・市民の方々をはじめ、多くの関係者の皆さんに支えられ、学生の皆さんが主役となって歴史を刻んで参りましたが、今後も歩みを止めることなく2年後には皆さんと共に、新しい施設で新たな歴史を築いていきたいと思えます。老人大学の一層の充実・発展を図っていく決意を申し述べ、今年度を修了するにあたっての式辞といたします。

2024年（令和6年）2月22日

福山市老人大学 学長 飛田洋悟